



白磁 Joseon White Porcelains

2018年 9月11日(火) - 11月23日(金祝)

□写真・白磁壺 18世紀前半 高34.2cm □後援・駐日本国大韓民国大使館 韓国文化院 □〒153-0041 東京都目黒区駒場4-3-33 □Tel 03-3467-4527 □京王井の頭線駒場東大前駅西口より徒歩7分

日本民藝館

当館の初代館長である柳宗悦^{やなぎむねよし} (1889-1961) が創始した民藝運動。その歩みを振り返ってみると、すべての活動が朝鮮陶磁器との出会いから始まっていることがわかります。後に提唱される民藝美論の礎となる「用の美」や「無心の美」への目覚めも、まさにその出会いが契機となったのです。

きっかけは1914年のことでした。当時、千葉県^{あさかわのりたか}の我孫子に住んでいた柳のもとへ、朝鮮から浅川伯教という人物が朝鮮陶磁器を手土産に訪れたのです。来訪の目的はロダンから贈られた彫刻作品を見るためでした。すると、柳は瞬く間にこの白磁の壺^{ひややか} (図版2) に心を奪われてしまったのです。その時の感激を、「その冷な土器に、人間の温み、高貴、荘厳を読み得ようとは昨日まで夢みだにできなかった。」(「我孫子から通信一」1914年) と、記しています。

以来、柳は浅川伯教と弟の巧^{たくみ}を介して度々朝鮮半島へ渡り、各地を巡って陶磁器や木工品、絵画、石工品や金工品などを蒐集しました。そして、朝鮮工芸への限りない愛情の証として展覧会や文筆活動を行い、民族固有の工芸文化の素晴らしさを国の内外に

紹介していったのです。

なお、柳の関心は器物にのみ向けられたものではありません。その眼差しは独自の文化を育ててきた朝鮮の人々にも向けられ、当時日本政府が推し進める武断的な植民地政策に異議を申し立て、朝鮮文化の擁護と保護に尽力したのであります。

現在、日本民藝館には、主として朝鮮時代 (1392-1910) に作られた約1,600点の工芸品が収蔵されており、日本国内の美術館としては最大級の質と量を誇っております。なかでも、朝鮮白磁はその白眉ともいえましょう。そこには時代の精神を映し出す清廉で簡素な美が宿っており、民族の心を象徴する独自の美意識が現れているのです。

さて、本展では無地の白磁をはじめ、白磁の素地に藍色に発色する酸化コバルト(呉須)で文様を描いた青花(染付)や、褐色に発色する鉄絵具で加飾した鉄砂、赤色に発色する銅顔料を用いた辰砂^{しんさ}など、柳がことのほか愛しんだ白磁の優品約150点を紹介します。朝鮮白磁が醸し出す、自由で無垢な美の世界をご堪能ください。



1. 白磁壺 18世紀前半 54.1×44.3cm
2. 染付秋草文面取壺 18世紀前半 12.8×11.8cm
3. 白磁四君子文三段重 19世紀前半 19.4×12.4cm
4. 白磁共手水注 19世紀 18.8×17cm
5. 辰砂虎鵠文壺 18世紀後半 28.7×25.1cm

※学術協力・東京藝術大学美術学部工芸史研究室 教授 片山まひ

記念講演会 朝鮮時代白磁の偏屈さを読む 11月2日(金) 18:00-19:30
 (講師) 伊藤郁太郎 (大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長) (料金) 300円 (入館料別、要予約)

ギャラリートーク 第3金曜日 (9/21、10/19、11/16) 17:30-18:00
 (講師) 田代裕一朗 (東京藝術大学工芸史研究室助手)、日本民藝館学芸員 ※入館料のみ、予約不要

□月曜休館(祝日の場合は開館し、翌日振替休館) □10:00-17:00 ※ただし金曜日(11/2は除く)は19:00まで開館(入館は閉館30分前まで) □入館料 一般1,100円 大高生600円 中小生200円 □西館公開日(旧柳宗悦邸) 会期中の第2水曜、第2土曜、第3水曜、第3土曜(開館時間10:00-16:30、入館は16:00まで) □〒153-0041 東京都目黒区駒場4-3-33 □電話番号 03-3467-4527 □交通 京王井の頭線駒場東大前駅西口より徒歩7分



<http://www.mingeikan.or.jp/> **日本民藝館**